

議題（２）第２期寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括について

①第２期寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和６年度の取り組み

エコノミックガーデニング推進事業
企業等立地促進事業 ・企業内で働く者への、住宅、子育て等の支援施策を取り組むべきと考える
近年、小規模店舗、製造業の廃業が多く見られます。原因の１つに後継者不足があります。事業承継のマッチング等を企画しても良いのではないかと思います。

観光推進事業
既存の観光資源には、限界があるのでは。観光を取り入れた新しいまちづくりとして倉見駅周辺や寒川神社周辺に、異色の町を創造し、観光化させたらどうか。
寒川町の観光振興において、町内に宿泊施設が一つも存在しない現状は大きな課題です。宿泊拠点がなく、滞在時間が短く通過型観光にとどまり、観光消費額や町内事業者への経済波及効果が限定的になっています。近隣市町との競争や広域観光連携を考える上でも、宿泊機能の整備は不可欠です。民間事業者による小規模宿泊施設やゲストハウス、農泊など、多様な形態の宿泊施設誘致・開設を支援し、滞在型観光への転換を促進していただきたいです。

タウンセールス推進事業
ブランドスローガン『「高座」のころ。』について、キャッチフレーズ自体は認知されてきているのかもしれませんが、『「高座」のころ。』とはどのようなものを指しているのかをわかりやすく明示すると良いのではないかと思います。
町民のブランドスローガン『「高座」のころ。』に前回よりポイントは向上している、ホームページ等で見える機会は増えているものの認知度目標値には達していない。もっとブランドステートメントを前面に打ち出していく方策を検討していただけたらと思います。 (私のような在勤者はあまり知らないと思います。)

### 結婚・出産・子育て環境整備事業

出生率の低下はそもそも婚姻数の低下が原因かと思います。国からのサポートが見込めないのであれば自治体独自に未婚の若者へ結婚を促すサポートをしてみてもどうか

「子育て支援センター利用者」について満足度は95%と非常に高いものの利用者数目標に達していない。前年より増加はしているので、より利用者の増加を目的に横に広げるような周知をより推進をお願いしたい。（全体としてKPIは未達であるものの各項で悪くないスコアだと考える）

・児童クラブ待機児童について、今年度南小学校の待機が20人程出ていて、小学2年生で通えない児童がいます。早急の対策をお願いしたい。以前ふれあいホールを建設できるまで使用していた事があります。ご検討をお願いします。

- ・サマースクールが中止になった事、残念に思います。
- ・子育てしやすい寒川にするため、産院が出来ることを望みます。
- ・支援センターは立地がよくない為、利用者が制限されているように思います。駅近くや役場近くにあると良いと思います。

現在、小規模保育所を運営しておりますが、町が主催する就職相談会を開催していただいたことで、社員の確保につなげることができました。今後も町が主体となって開催していただければ、その分の採用経費を子どもたちへのサービスや環境整備に還元することが可能となります。引き続きのご支援をお願いいたします。

### 魅力的な教育環境推進事業

グローバル教育の推進とあるが、見方によっては外国の英語教師を使って、欧米化教育を図るのか、疑問に思う。古い考えか分からないが、日本に生まれ育った日本人を育てる（読み書きそろばん等）ことが大事ではないか。教師が効率化する為に行っているのではないかと考えてしまう。人間、必要に駆られれば外国語等は自ら学習すると思う。

- ・英語の勉強が好きというのではなく、寒川で英語の学習をして役に立っているという質問の方がよいと思います。好きと聞くだけならいくらでも言えます。
- ・英検3級の補助金の件について、小学校5・6年より教科になっているので、小学校にも補助枠を広げてほしい。英語に力を入れているのであれば

### 安心なまちづくり整備事業

意見なし

### 若者参画推進事業

意見なし

### 快適なまちづくり推進事業

意見なし

②第2期寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括

『「高座」のころ。』のスローガンの具体的な「穏やかさ、優しさ、あたたかさ」をキャッチフレーズとして住民にお知らせしてほしい。

寒川町がこれまで真剣にまちづくりに取り組み、人口減少や少子高齢化という大きな課題に対し着実に施策を実行してこられたことに、委員として心より感謝申し上げます。町が前向きに検討・推進している様々な施策が、確実に目標達成へ結びつくことを願いつつ、さらなる効果向上のため以下を提案いたします。

若者定着のボトルネック解消：就業マッチング（地元企業×学生・U/Iターン）、賃貸・持家支援、リスクリング支援を一体設計し、20代前半の転出超過に直接効く施策へ資源を重点配分。

子育ての「ゆとり」創出を実装レベルへ：病児・病後児保育、短時間・延長保育、保育士確保（就職相談会の恒常開催・奨学金返済支援等）を継続強化し、保護者の可処分時間と就業継続を同時に高める。

観光推進の構造的課題解消：町内に宿泊施設がゼロで滞在・消費が伸びない現状を踏まえ、小規模宿・簡易宿所・農泊等の誘致支援と近隣市町との広域周遊をセットで進め、滞在型観光へ転換。KPIに「滞在時間・観光消費額・再訪率」を追加。

商業の生産性向上：中小商業へのDX支援（予約・口コミ・キャッシュレス・EC・写真/動画素材提供）と、デジタル地域通貨と連動した来店促進で域内消費を底上げ。

寒川町の強みである住みやすさや地域のつながりを活かし、これらの提案が第3期戦略の推進力となり、町の掲げる目標の確実な達成につながることを期待しています。

### 議題（3）地方創生2.0について

寒川町における地方創生の方向性の1つとしてストリートスポーツを活用するのは良いと思います。ストリートスポーツを中心にファッション、ショッピング、アート等複合的に考える必要があります。また、若者だけに特化することなく自然環境との調和を生かした町のイメージづくりが大切だと思います。

スポーツ公園の周りに飲食やコンビニなど何もないです。税の優遇をし、新しいお店の誘致を検討して下さい。

駅からの導線がとても悪いです。色々な人が行きやすい方法を検討してください。

- ・地方創生が実現できるよう寒川町がそれぞれどのように取り組んで行くのか、これから期待して行きたい。
- ・ストリートスポーツパークはとてもよい計画であると思います。スポーツを通して若者が寒川町を知り、メディアに取り上げられていく事を願います。
- ・寒川神社がある町を有効に活用してほしい。近くにおしゃれなカフェやレストランができる事業サポートが出来ることを望みます。

寒川町がこれまで真剣にまちづくりに取り組み、人口減少や少子高齢化という課題に着実に対応してこられたことに敬意を表します。今後は、国が示す「地方創生2.0基本構想」の方針に沿って、町の総合戦略を着実に推進されることを期待します。

特に、

若者や女性にも選ばれる地域づくり

稼ぐ力を高める高付加価値型の地方経済の創生

AI・デジタルなど新技術の徹底活用

都市と地方の人材・企業交流による好循環の創出

広域リージョン連携による面的・分野横断的な発展

これらの視点が寒川町の現状に合致しており、町の持続可能な発展につながると考えます。可能な限り、資料に示された方向性に沿って取り組みが進むことを強く望みます。

#### 議題（４）その他

寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略について、非常に難しい事案を担当している皆さんご苦労様です。

今日の、少子高齢化について、誰もが使う言葉ですが、行政にとって非常に深刻な課題であると思います。行政全般の全てが少子高齢化と繋がりますし、民間企業でも深刻な人材不足等で、企業間合併等が進んでおります。

今日まで、この少子高齢化対策を見直してきてきたことが現在、課題として浮かび上がってきているように思います。

これは寒川だけの問題ではありません。全国、津々浦々で起こっている現象で、人口を増やすとか、企業・商業などや移住を増やすとかで、地方創生に飛びついているように思います。

労働者派遣法が1986年に施行され、1990年代バブル崩壊以降、派遣社員が急増し、雇用不安定化のなかで、結婚や出産しない30代～40代の方々が約35%いる中で、人口を増やすことは無理だと思います。

また、将来人口が、低迷していくことは明らかです。人口を増やして財源確保を死守することも難しいのではと考えます。

それより、現状のありのままの人口を想定し、それに見合ったまちづくりをすることが大事かもしれません。この地方創生の裏には、第2の市町村合併を強力に推進しようとするもくろみがあるのではないかと、疑ってしまいます。寒川町を将来的に残していくのか、それとも近隣市町と合併して行くのか、グローバルな見方で検討すべきではないかと思えます。

総合戦略における基本目標が、総合戦略が立案されれから、大きく変化せず、継続して取り組まれていることこそ、政策推進の上で賞賛に値すると考えている。

寒川町はとても住みやすい場所と思っています。大雨や水不足もなく、交通機関に恵まれている良い所が世の中に知られることを願っています。